7月28日　ヨハネによる福音書６章４１～５９節

「イエス様に生かされる」

今日の個所でイエス様のもとに集まった人々は、イエス様が語る「私は天からのパンだ」というたとえがわからない様子でした。「ガリラヤで生まれたヨセフの息子なのに天から降ってきたとはどういうことか」とささやきあう人々に対してイエス様は、正しい信仰に至るためには神様の導きが必要不可欠であり、その神様のことをきちんと理解するためにはイエス様の言葉に従う必要がある事と語っていました。

今日の個所の後半部分では、「私が命のパンである」「私の肉を食べ、私の血を飲むことで永遠の命が実現する」と、今日の個所で最も強調されている言葉が示されています。これは私たちが毎月行っている聖餐式のことを示しています。一般的に聖餐式の聖書個所と言うと最後の晩餐の場面を想像しますが、ヨハネ福音書では今日の個所が聖餐式を示す最も重要な箇所です。

私たちは、イエス様の言葉を受けて、その言葉通りに行う聖餐式のパンとぶどう酒が、祈りの中の「御言葉と聖霊によって、このパンとぶどう酒を聖別してください」という言葉が確かにその時に実現していると受け止め、そこに「イエス様がいる」というイエス様の臨在の出来事と、そのパンとぶどう酒によって「十字架にかかったイエス様」を思い起こしています。

パンが裂かれる動作によって、イエス様の手足に釘が打たれたこと、その体に鞭が打ちこまれたことと、そして十字架につけられ、死の後にも脇腹に槍を突き立てられた、そのすべての事によってイエス様の体が傷つけられ、肉が裂かれていたことを思い出させます。そして、ぶどう酒の赤い色によって、すべての痛みと苦しみによってイエス様が血を流し、その血によってすべての人々から罪と死が取り除かれ、イエス様を信じるそのことによって永遠の命が与えられる契約を受けることが出来る、その事を思い出すことが出来るのです。それらによって私たちは、傷つき痛みを負ってでも、私たちを救おうと愛してくださった、イエス様の愛によって生きることが出来るのです。

そのパンとぶどう酒を受けた私たちは、神様とイエス様の関係のように、イエス様とつながることができると、今日の個所では示されています。旧約聖書の、モーセの時に与えられた契約とは違い、さらに新しく、深い恵みがあることを繰り返しイエス様は強調していました。

このように示される聖餐式によって、私たちは命を新しくし、心を改めながら、新たな信仰の道を歩みだすことが出来るようになっています。この食卓は、洗礼を受けていないと与ることは出来ません。聖餐式の式文には、「ふさわしくないままでパンを食べ、杯を飲まないように」という言葉が書かれています。ただこれは、「洗礼を受けていないとふさわしくない」という意味ではありません。聖餐式のことを軽んじていないか、イエス様のことを軽く見ていないか、その言葉に従わなくてもいいやと、御言葉を自分の都合よりも下に見てしまっていないかを確かめる言葉であります。そのために神様を信じることが必要不可欠なのです。

私たちは神様の言葉に従い切ることが出来ない、すべての時と場所で正しく生きることが出来ないものです。私たちは、自分が御言葉に従うことが出来ていないことを理解して、そんな私たちを愛してくれている神様の愛に感謝をして聖餐に与ること、それが私たちにとって「ふさわしい」状態なのだと思います。足りない私たちを、欠けている部分の多い私たちを、それでも愛し招いてくれている、その神様の愛に生かされながら、今週一週間の歩みを、これらの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書６章４１～５９節

- 41:ユダヤ人たちは、イエスが「私は天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことでつぶやいて、こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『私は天から降って来た』などと言うのか。」イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。私をお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、誰も私のもとに来ることはできない。私はその人を終わりの日に復活させる。預言者の書に、『彼らは皆、神に教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、私のもとに来る。父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。よくよく言っておく。信じる者は永遠の命を得ている。私は命のパンである。あなたがたの先祖は荒れ野でマナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。私は、天から降って来た生けるパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。私が与えるパンは、世を生かすために与える私の肉である。」
- 52:それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に与えて食べさせることができるのか」と言って、互いに議論し合った。イエスは言われた。「よくよく言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。私の肉を食べ、私の血を飲む者は、永遠の命を得、私はその人を終わりの日に復活させる。私の肉はまことの食べ物、私の血はまことの飲み物だからである。私の肉を食べ、私の血を飲む者は、私の内にとどまり、私もまたその人の内にとどまる。生ける父が私をお遣わしになり、私が父によって生きるように、私を食べる者も私によって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は永遠に生きる。」これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。